



取扱説明書

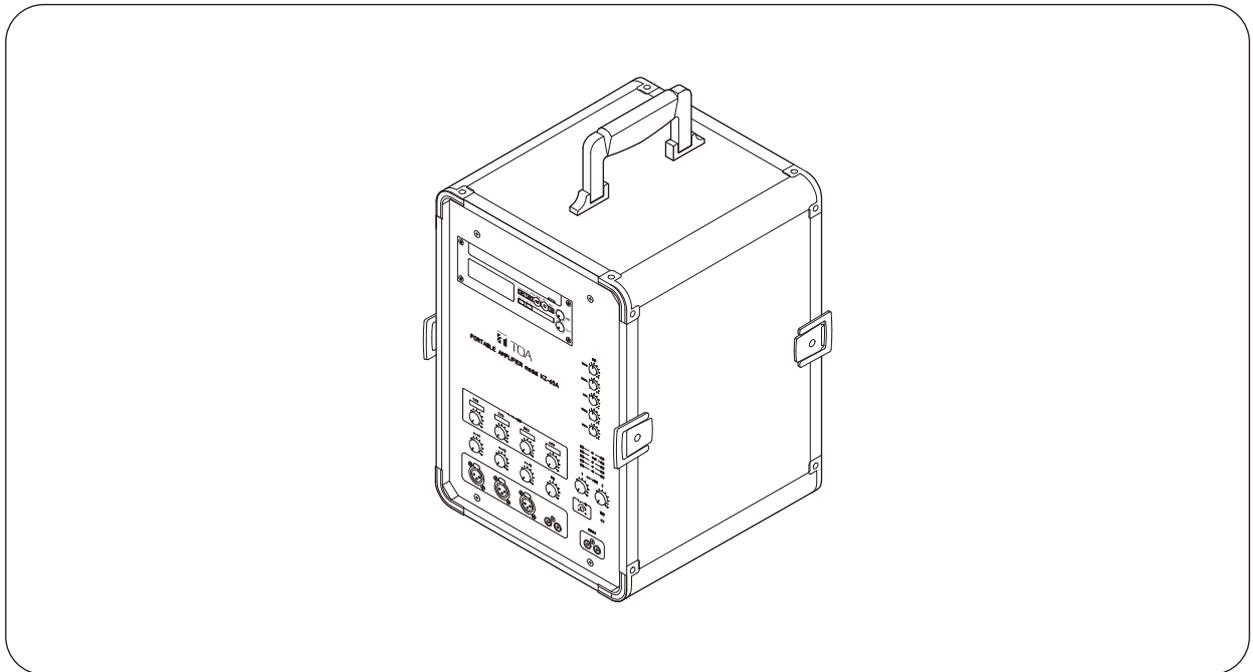
移動用 PA アンプ

30 W × 2 ch CD 付

KZ-30A

65 W × 2 ch CD 付

KZ-65A



このたびは、TOA 移動用 PA アンプをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目 次

安全上のご注意	3
電源コードの取り扱いについて	5
上手にお使いいただくために	5
各部の名称とはたらき	6
ミュート量の調節	8
音質の調節	8
保護回路	8
接続・設置のしかた	9
入力機器、録音機器の接続	9
スピーカーの接続（ローインピーダンスの場合）	10
スピーカーの接続（ハイインピーダンスの場合）	10
パワーアンプの接続	11
電源の接続	11
CD プレーヤーユニットの使いかた	12
各部の名称とはたらき	12
CD プレーヤーユニットをお使いになる前に	13
CD 再生のしかた	14
エラー表示一覧	22
コンパクトディスクの取り扱いかた	23
有線マイクの使いかた	24
ワイヤレスマイクの使いかた	25
操作のしかた	25
使用上のご注意	26
ワイヤレスチューナーユニットの増設のしかた	27
周波数の設定のしかた	28
トーンスイッチについて（WTU-1820 使用時のみ）	32
コード設定（WTU-D2810 使用時のみ）	33
上手なミキシングのしかた	34
故障かな？と思ったら	35
著作権について	37
仕 様	38

安全上のご注意

- ご使用前に、この欄を必ずお読みになり正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保管してください。

行為を禁止する記号	行為を強制する記号
 分解禁止	 強制
 禁止	 電源プラグを抜く



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

水にぬらさない

本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。



禁止

指定外の電源電圧で使用しない

表示された電源電圧を超えた電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。



禁止

ハイインピーダンスライン接続時は電源を切る

ハイインピーダンスのスピーカー端子にスピーカーケーブルを接続したり、外したりするときは、電源スイッチを切ってから行ってください。この端子には定格出力時に 100 V の電圧がかかり、触れると感電の原因となります。



強制

配線後は端子カバーを取り付ける

ハイインピーダンスラインのスピーカー端子には最大 100 V の電圧がかかりますので、触れると感電の原因となります。



強制

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



禁止

使用するとき

万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（心線の露出、断線など）
- 音が出ないとき



電源プラグを抜く



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

使用するとき

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。



分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



禁止

内部に異物を入れない

本機の通風口などから内部に金属類や燃えやすいものなど、異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。



禁止



注意

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

設置・据付をするとき

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。



禁止

電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。



禁止

移動させるときは電源プラグを抜く

差し込んだまま移動させるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



電源プラグを抜く

通風口をふさがない

通風口をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。また、通風口にほこりがたまらないよう定期的に掃除をしてください。



禁止

湿気やほこりの多い場所などに置かない

湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。



禁止

本機を通路などに置かない

通路など、人が足を引っ掛ける可能性がある場所には置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。



禁止

ハンドルを吊り下げて設置しない

ハンドルは本機を持ち運ぶときだけに使用してください。
守らないと、落下して、けがの原因となることがあります。



禁止



注意

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

使用するとき

上に重いものを置かない

本機のバランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。



禁止

電源を入れる前には音量を最小にする

音量を上げたまま電源を入れると、突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。



強制

長時間、音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



禁止

使用中または使用後すぐに、放熱器にさわらない

放熱器が熱くなっていることがあり、やけどの原因となることがあります。



禁止

電源プラグやコンセント部の掃除をする

電源プラグを差してあるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。また、電源プラグは根元まで差し込んでください。



強制

お手入れの際、長期間使用しない場合の注意

お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。守らないと、感電・火災の原因となることがあります。



電源プラグを抜く

電源コードの取り扱いについて

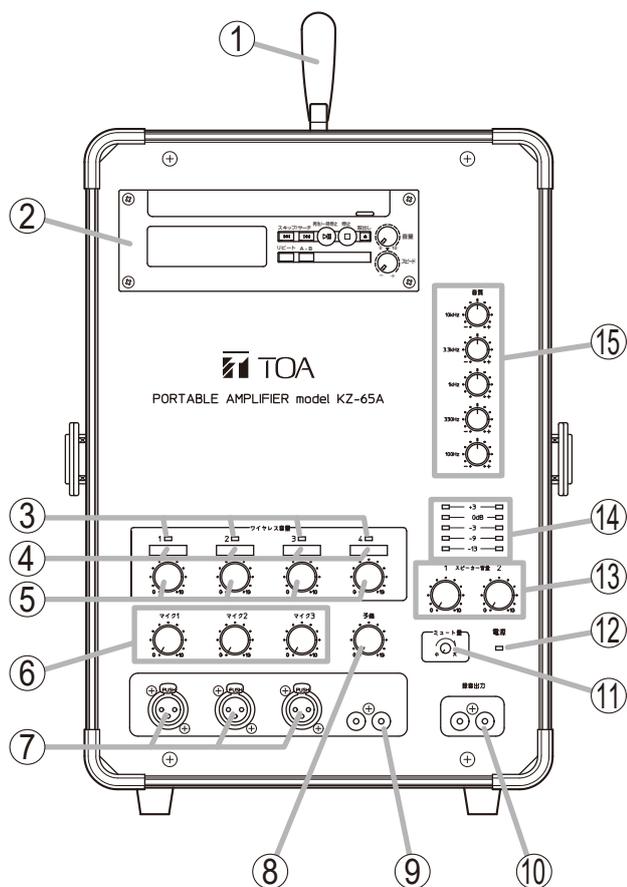
付属の電源コードは、本機専用品です。
本機以外の機器に使用しないでください。

上手にお使いいただくために

- ハウリングが起きるときは、マイクをスピーカーから離すか、音量を下げてください。スピーカーをマイクの使用場所から離して設置すると、ハウリングが起きにくくなります。
- 床面よりも机の上など少し高い位置に設置した方がスピーカーからの音が明瞭に聞こえます。また、ワイヤレスマイクも本機からより離れた場所で使用することができます。
- ワイヤレスマイクを移動しながら使用すると、電波の反射や干渉によってデッドポイントと呼ばれる、急に音がとぎれる場所が発生することがあります。デッドポイントを解消するためには、本機を壁や机から離すか、設置場所を1～2m動かしてください。
- 蛍光灯やパソコンなどの高周波雑音を発生する機器から本機を離して設置してください。近くに設置すると、混信が発生したりワイヤレスマイクの電波が届きにくくなったりすることがあります。
- ワイヤレスマイクと本機はなるべく3m以上離して使用してください。3m以内で使用すると、雑音が発生したり混信の原因になったりすることがあります。
- 保管するとき、自動車のトランクや荷台に積み込んで移動するときは、必ず本体のハンドルが上になるようにしてください。CDプレーヤーが正常に動かなくなったり音飛びの原因になったりします。
- 清掃は必ず電源を切ってから、乾いたやわらかい布でふいてください。また、ひどい汚れは中性洗剤をしみこませた布を使用してください。ベンジン・シンナー・アルコール類・化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。変形、変色の原因となります。

各部の名称とはたらき

[前面]



※ 図は KZ-65A です。

1. ハンドル

持ち運びのときに使用します。

2. CD プレーヤーユニット

操作のしかたは「CD プレーヤーユニットの使いかた」(P. 12) をお読みください。

3. ワイヤレス受信表示灯

ワイヤレスマイクの電波を受信すると点灯します。デジタルワイヤレスチューナーユニットを組み込んでいる場合のみ、妨害電波を受信したときや、コード設定 (P. 33) またはモード設定 (P. 26) が一致していないときには点滅します。

4. カラーマーク貼り付け位置

使用するワイヤレスマイクと同じカラーマークを貼ってください。

5. ワイヤレスマイク音量つまみ

ワイヤレスマイクの音量を調節します。

6. 有線マイク音量つまみ

マイク入力端子 (7) に接続された有線マイクの音量を調節します。

7. マイク入力端子

-66 dB *、600 Ω、平衡、XLR-3-31 相当品有線マイクを接続します。
コネクターピンの極性：1 番グランド、2 番ホット、3 番コールド

8. 予備入力音量つまみ

予備入力端子 (9) に接続した機器の音量を調節します。

9. 予備入力端子

-20 dB *、10 k Ω、不平衡、RCA ピンジャック×2
携帯音楽プレーヤーなどを接続します。
ステレオで接続してください。内部でステレオ信号をミキシングしてモノラルにします。

10. 録音出力

0 dB *、10 k Ω、不平衡、RCA ピンジャック×2
外部入力などで録音するとき接続します。
この出力はモノラルです。接続されるデッキがステレオのとき、L/R チャンネルに関係なく両方とも接続してください。

11. ミュート量調節つまみ

マイク放送 (ワイヤレスマイクを含む) で内蔵 CD プレーヤーまたは予備入力に接続された機器の音量 (BGM) を自動的に下げる量を調節します。
詳しくは、「ミュート量の調節」(P. 8) をお読みください。

12. 電源表示灯

電源を入れると点灯します。

13. スピーカー音量つまみ

スピーカー端子 (22) またはスピーカー出力端子 (23) に接続されたスピーカーの音量を調節します。

× モ

ライン出力端子 (21) の音量は、スピーカー音量つまみ 1 で調節します。

14. スピーカー出力表示灯

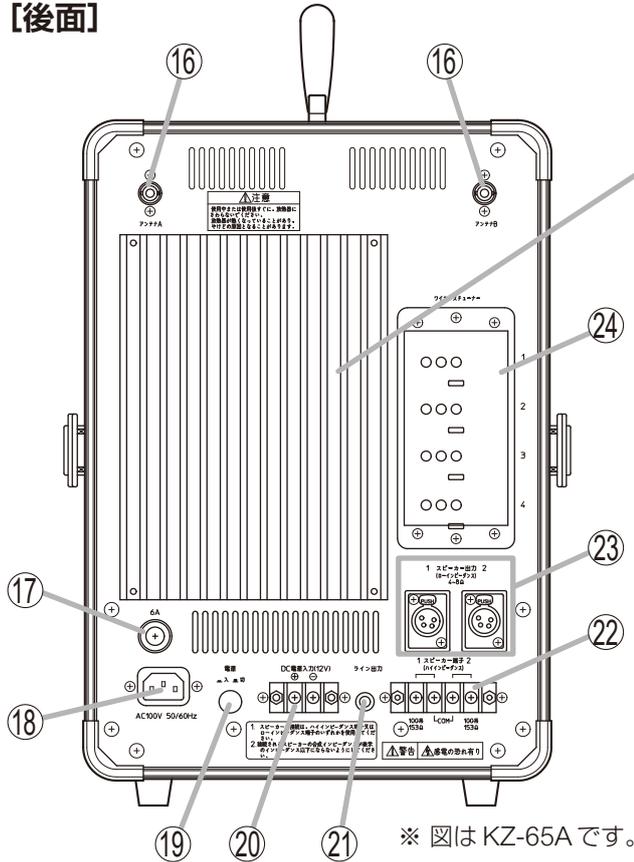
スピーカー端子 (22) またはスピーカー出力端子 (23) の出力の大きさをそれぞれ表示します。

15. 音質調節つまみ

詳しくは、「音質の調節」(P. 8) をお読みください。

* 0 dB = 1 V

[後面]



⚠ 注意
 使用中または使用後すぐに、放熱器にさわらないでください。
 放熱器が熱くなっていることがあり、やけどの原因となることがあります。

16. ワイヤレスアンテナ接続端子
 ワイヤレスマイクを使用するときは、付属のアンテナ 2 本を必ず取り付けてください。

⚠ ご注意

ワイヤレスアンテナを 1 本だけ取り付けて使用すると、ワイヤレスマイクの音声が途切れたり通達距離が極端に短くなったりすることがあります。

17.AC 電源ヒューズ
 必ず付属のヒューズを入れてください。
 (KZ-30A は 4 A、KZ-65A は 6 A)

18.AC 電源インレット
 付属の電源コードを根元まで確実に差し込んでから、電源プラグをコンセントに接続してください。

19.電源スイッチ
 押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。

20.DC 電源入力端子
 本機を DC 電源で使用するとき DC14.0 V(12 V バッテリー) を接続します。

⚠ ご注意

- DC 電源使用時の定格電圧は 14.0 V、定格消費電流は KZ-30A で 13 A、KZ-65A で 21 A です。余裕のある電源をお使いください。
- DC 電源コードは、必ず定格電流が安全に流せる断面積を持ったコードをできるだけ短くして (3 m 以下) お使いください。また、接続のときには電源スイッチを切り、+、- をよく確かめて、ショートしないようご注意ください。接続の極性を間違えると機器故障の原因となることがあります。

21.ライン出力端子
 0 dB *、600 Ω、不平衡、ホーンジャック
 他の放送設備を使って本機の信号を放送したいときは、この端子を他の設備のパワーアンプの入力端子に接続してください。

✕ モ

本端子の音量は、スピーカー音量つまみ 1 (13) で調節します。

22.スピーカー端子 1、2 (ハイインピーダンス 100 系、端子カバー付き)
 ハイインピーダンスのスピーカーを接続する端子です。スピーカー端子 1、2 に接続できるスピーカーのワット数はそれぞれ KZ-30A では 30 W 以下、KZ-65A では 65 W 以下です。

⚠ 警告
 スピーカーケーブルを接続したり、外したりするときは、電源スイッチを切ってから行ってください。また、配線後は端子カバーを取り付けてください。この端子には定格出力時に 100 V の電圧がかかり、触れると感電の原因となります。

23.スピーカー出力端子 1、2 (ローインピーダンス 4 ~ 8 Ω)
 接続できる別売のスピーカーは下記のとおりです。

KZ-30A	KZ-155、KZ-650A、KZ-1200、KZ-1200E
KZ-65A	KZ-650A、KZ-1200、KZ-1200E

接続にはそれぞれのスピーカーに付属のスピーカーケーブルをお使いください。

4P コネクターの極性 4 番:ホット 1 番:コモン
 は右図のとおりです。 3 番:ホット 2 番:コモン



⚠ ご注意

ハイインピーダンスとローインピーダンスのスピーカーを同時に使用することはできません。同時に使用すると、本機故障の原因となります。

24.ワイヤレスチューナーユニット収納部
 ワイヤレスチューナーユニットを 4 台収納できます。

ワイヤレス 1、2	WTU-1820 内蔵
ワイヤレス 3、4	チューナーユニット別売

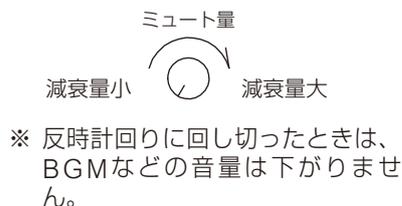
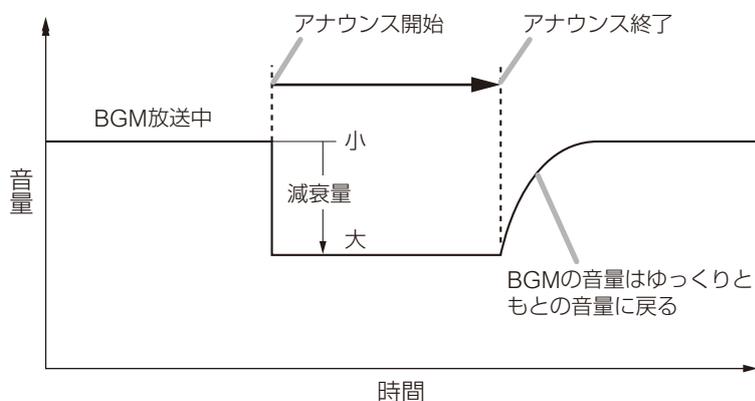
適合するワイヤレスチューナーユニットは、WTU-1820 ダイバシティチューナーユニットおよび WTU-D2810 デジタルワイヤレスチューナーユニットです。

別売のワイヤレスマイクと本機に組み込んだワイヤレスチューナーユニットのグループ、チャンネルを合わせてください。(P. 28 「周波数の設定のしかた」)

* 0 dB = 1 V

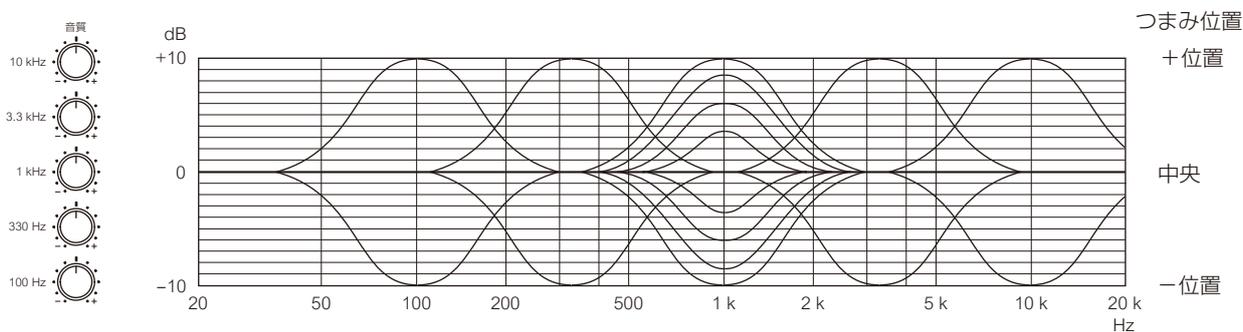
■ ミュート量の調節

- 本機はミュート回路を内蔵しています。有線マイクまたはワイヤレスマイクでアナウンスをすると、CDプレーヤーおよび予備入力のBGMなどの音量を自動的に減衰させます。
- 減衰量は、ミュート量調節つまみで調節できます。時計回りに回すと減衰量が大きくなり、反時計回りに回すと減衰量が小さくなります。
- アナウンスが終わると、BGMなどの音量は自動的にもとの音量になります。



■ 音質の調節

- 本機の音質調節回路は5ポイントのピーキングイコライザーを採用しています。5つの中心周波数（100 Hz、330 Hz、1 kHz、3.3 kHz、10 kHz）での特性を +10 dB ~ -10 dB に連続的に変化させることができます。



- 使用する場所にに応じて5ポイントの周波数特性を変化させることにより、マイク放送のときのハウリング（キーンという音がでること）を抑えたり反響の多い場所で明瞭度を上げたりするのに効果があります。
- それぞれのつまみが中央の位置でフラットな周波数特性です。
- 周波数に対応したつまみを+方向に回し切ると、その中心周波数のゲインが10 dB増幅します。
- 周波数に対応したつまみを-方向に回し切ると、その中心周波数のゲインが10 dB減衰します。

■ 保護回路

本機には、パワートランジスタの保護回路が内蔵されており、過負荷や誤接続のときなどに、出力の音量を強制的に下げて回路を保護します。

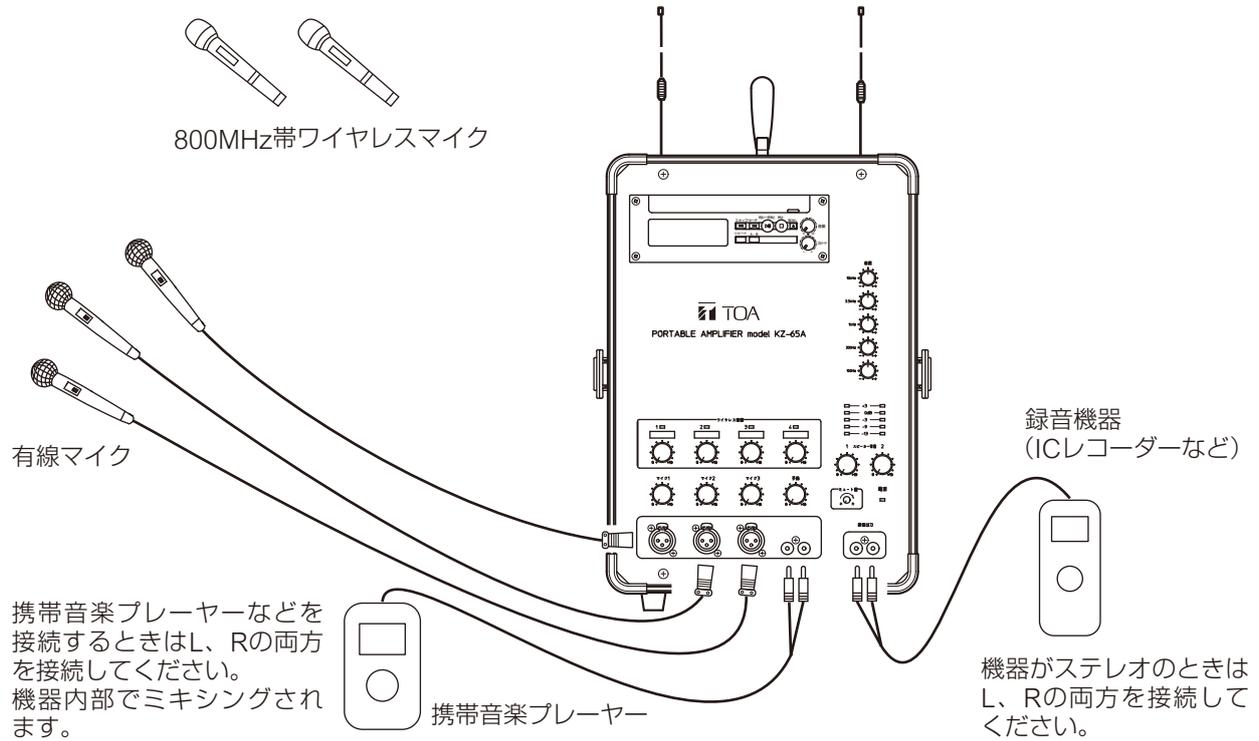
また、本機内部の温度が異常に上昇したときは、出力を停止させて回路を保護します。

使用中に音が歪んだり、ワイヤレスマイクのデッドポイント以外で音が途切れたりするときは、接続の確認や風通しの良い場所への移動などをしてください。

接続を正しくやり直した場合、あるいは機器内部の温度が下がった場合には保護回路は自動復帰します。

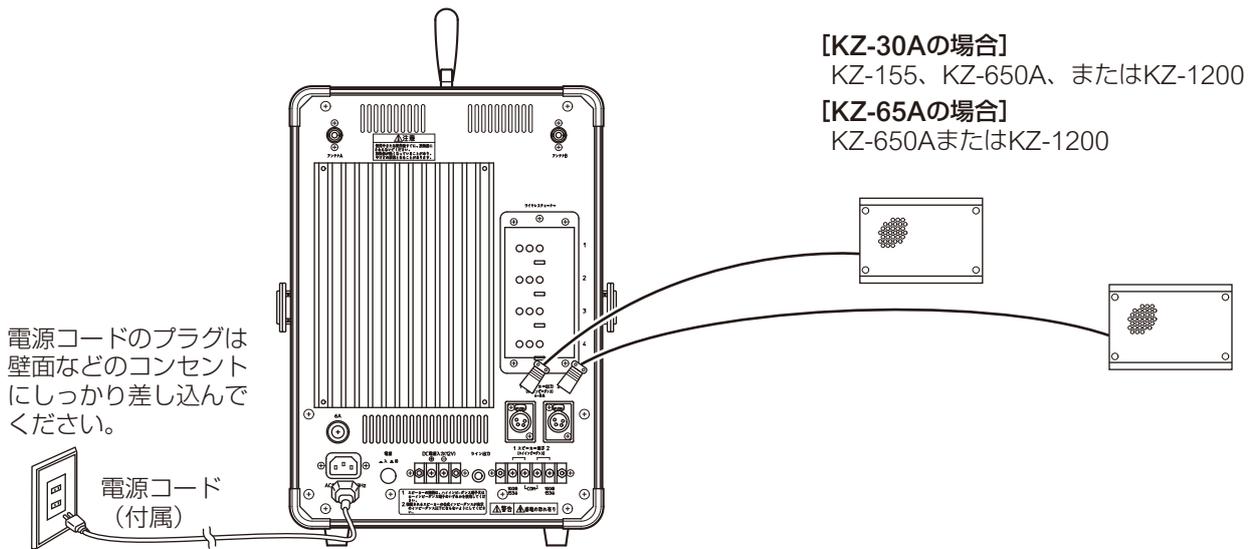
接続・設置のしかた

■ 入力機器、録音機器の接続



■ スピーカーの接続（ローインピーダンスの場合）

図は、スピーカー出力端子 1、2 にそれぞれスピーカー 1 台を接続するときの例です。



【使用できるスピーカーの組み合わせ】

接続できるスピーカーの数は、スピーカー出力端子 1、2 共にそれぞれ 2 台までです。

スピーカー アンプ	スピーカー出力端子 1 つにスピーカー 1 台を接続するとき	スピーカー出力端子 1 つにスピーカー 2 台を接続する とき*
KZ-30A	KZ-155、KZ-650A、または KZ-1200	KZ-155 を 2 台、KZ-650A を 2 台、または KZ-1200 と KZ-1200E を各 1 台
KZ-65A	KZ-650A または KZ-1200	KZ-650A を 2 台、または KZ-1200 と KZ-1200E を 各 1 台

* スピーカー出力端子 1、2 それぞれに接続するスピーカーの合成インピーダンスは、4 ~ 8 Ω にしてください。

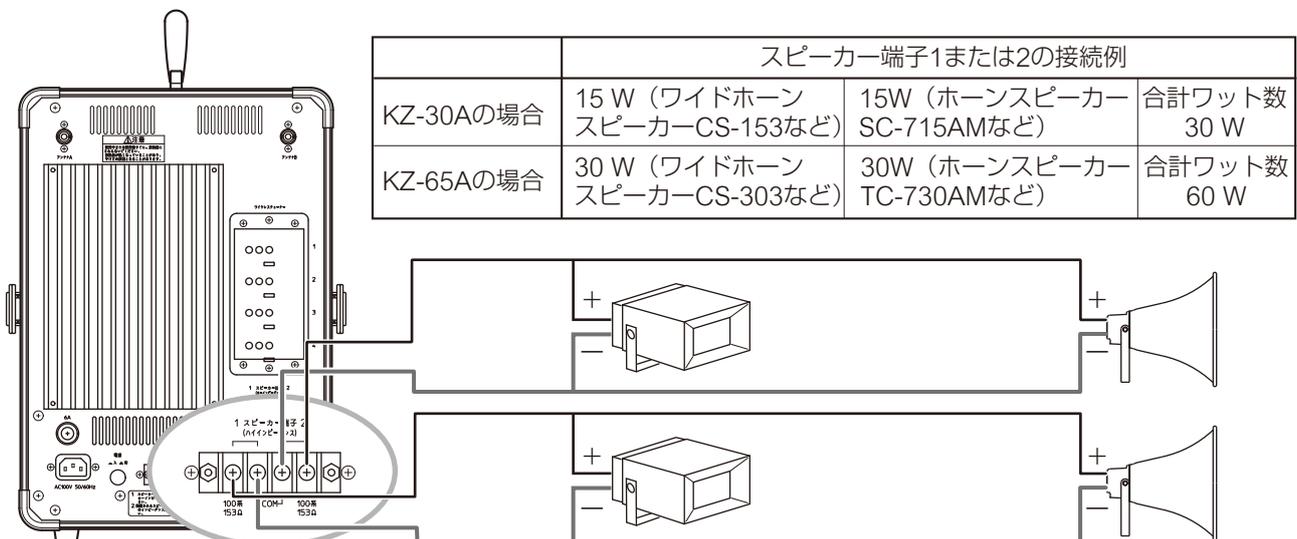
※ スピーカーケーブルは各スピーカーに付属しています。

詳しい接続のしかたは、各スピーカーの取扱説明書をお読みください。

■ スピーカーの接続（ハイインピーダンスの場合）

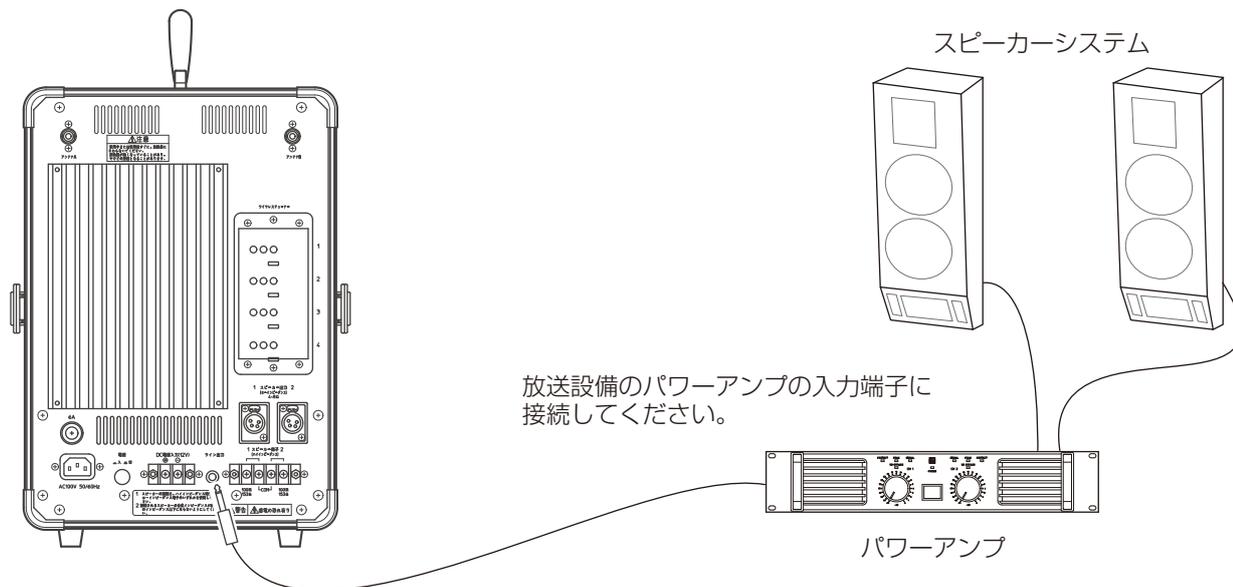
ご注意

- スピーカー端子 1、2 それぞれに接続されるスピーカーのワット数の合計が KZ-30A の場合は 30 W、KZ-65A の場合は 65 W を超えないようにしてください。
- KZ-30A、KZ-65A にはローインピーダンスとハイインピーダンスのスピーカー出力端子があります。ハイインピーダンスとローインピーダンスのスピーカーを同時に使用することは絶対にしないでください。同時に使用すると、過負荷になり本機故障の原因となります。



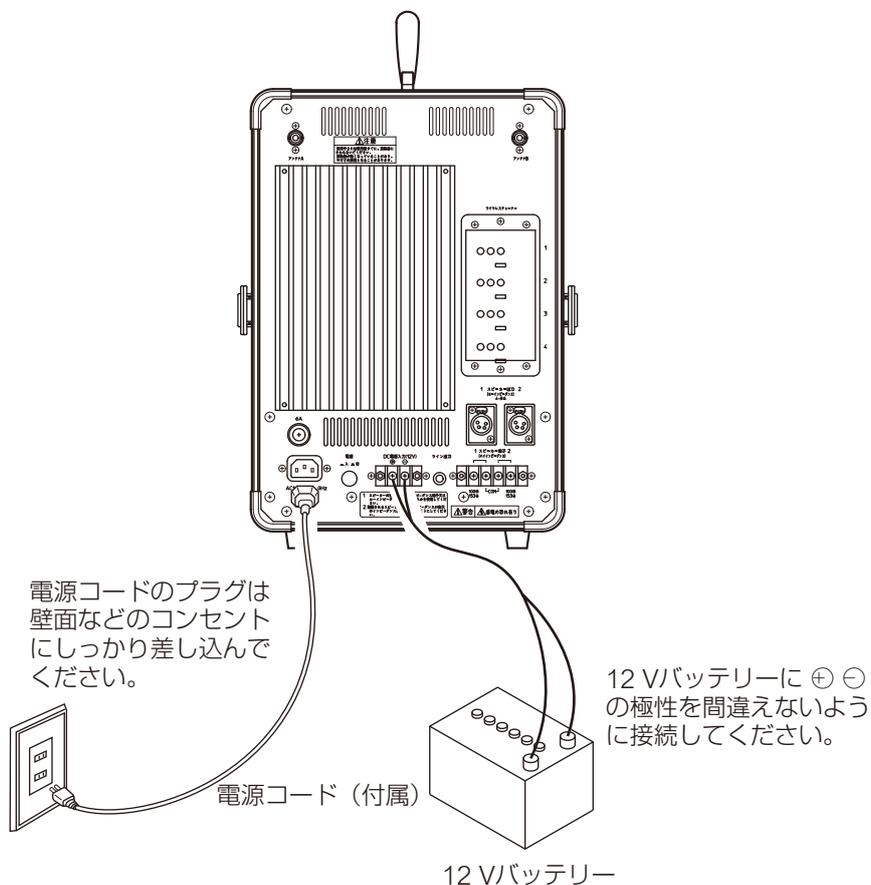
■ パワーアンプの接続

KZ-30A、KZ-65A を入力機器として使用するとき、スピーカーの音量はスピーカー音量つまみ 1 で調節してください。



■ 電源の接続

AC 電源および DC 電源が使用できます。

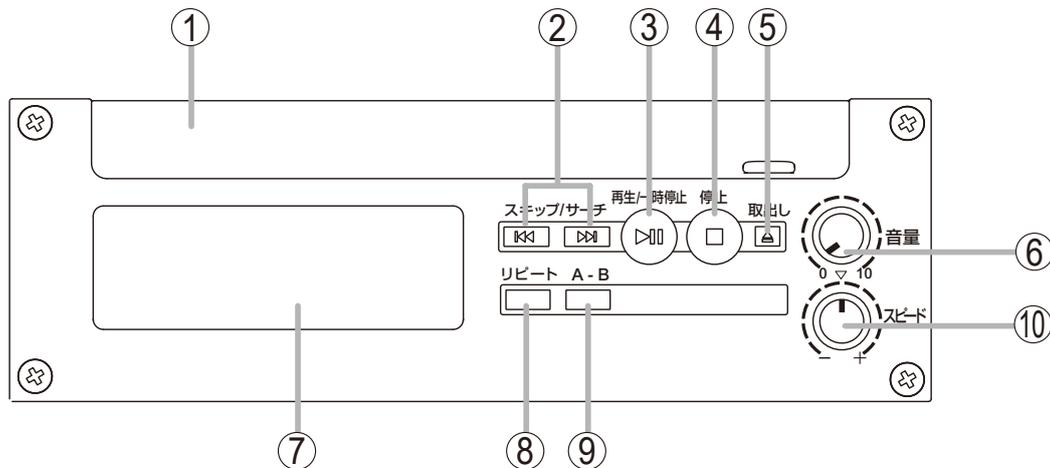


ご注意

KZ-30A の場合は 13 A 以上、KZ-65A の場合は 21 A 以上の容量が必要です。

CD プレーヤーユニットの使いかた

■ 各部の名称とはたらき



1. ディスク挿入口

CD 用防塵カバーを上げて、ディスクの印刷面（レーベル面）を上にして入れてください。自動的に収納し、読み込みが完了すると表示部に曲数とディスクに収録されている合計時間が表示され、CD 読み込み完了状態で待機します。

2. スキップ／サーチボタン [◀▶]

曲が 2 秒以上再生されてから ◀▶ ボタンを押すと、再生中の曲の頭にスキップします。曲の頭から 2 秒未満に押し続けると、1 つ前の曲の頭にスキップします。また、このボタンを押し続けると、早戻しになります。

▶▶ ボタンを押すと、次の曲の頭にスキップします。最後の曲で押し続けると、最初の曲の頭にスキップします。また、このボタンを押し続けると、早送りになります。

3. 再生／一時停止ボタン [▶||]

CD 読み込み完了後に押し続けると、1 曲目から再生を開始します。再生中に押し続けると、一時停止状態になります。また、一時停止状態で押し続けると、一時停止された位置から再生を再開します。

4. 停止ボタン [■]

再生中に停止ボタンを押すと再生中の曲を選曲して停止、再度停止ボタンを押すと 1 曲目を選択した状態になります。再度再生を開始すると、選曲された曲のはじめから再生を開始します。

5. 取出しボタン [▲]

押し続けると、CD を排出します。再生中に押し続けると、いったん再生を停止してから CD を排出します。CD を排出するときには、CD 用防塵カバーを上げててください。

6. CD 音量つまみ

音量を調節します。つまみを時計回りに回すと音が大きくなり、反時計回りに回すと音が小さくなります。

7. 表示部

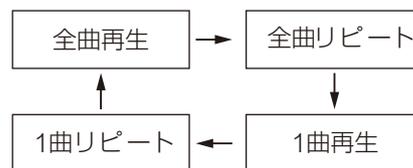
CD の内容、リピート再生状態などを表示します。



省電力機能があり、何も操作をしない状態で約 5 分経つと、CD プレーヤーユニットの電源が切れます。再生／一時停止状態では、5 分経過後も CD プレーヤーユニットの電源が切れることはありません。

8. リピートボタン

押しごとにリピート状態が以下のように切り替わります。各リピート状態は、表示部 (7) に表示されます。



9. A-B リピートボタン [A-B]

A 地点から B 地点までをリピート再生します。再生中に押し続けると A 地点を記憶し、もう一度押し続けると B 地点を記憶します。A-B リピート再生中に、このボタンを押すと A-B リピートを解除します。

ご注意

曲開始から 1 秒経過するまでの再生区間に、A 地点、B 地点の設定はできません。

10. スピード調節つまみ

再生スピードの調節をします。つまみの指針が中央のときが標準スピードです。つまみを時計回り (+ 側) に回すとスピードは速くなり、反時計回り (- 側) に回すとスピードは遅くなります。スピードの調節範囲は約 -15 ~ 約 +20% です。

■ CD プレーヤーユニットをお使いになる前に

● 使用上のご注意

- 本機は  のマークの CD と CD-R に対応しています。なお、CD-R は CD のメーカーによって反射率や書き込む機器などの違いで、再生できないものもありますので注意してください。
- CD-R はファイナライズを行ってからお使いください。ファイナライズされていない CD-R は正しく認識されないことがあります。
- 本機の CD プレーヤーユニットは 8 cm のシングル CD および 8 cm CD アダプターは使用できませんので、絶対に入れないでください。取り出しができなくなります。
- 温度の低い場所から急に高い場所に移動して使用すると、CD や光学部品に水滴が付いて（結露して）くもり、正常な動作をしない場合があります。
CD がくもっているときは、乾いたやわらかい布でふいてください。光学部品がくもっているときは、約 1 時間放置しておくくと自然にくもりが取れて正常に動作します。
- CD を出し入れするときは、ディスク挿入口に無理な力をかけないでください。本機の故障の原因となったり、CD に傷を付けたりすることがあります。
- 電源スイッチを切ったり、電源プラグを抜いたりするときに、CD を入れたままにしていると、CD を取り出せなくなります。
※ CD を取り出すときは、本機の電源プラグをコンセントに差し込み、電源スイッチを入れ、CD 用防塵カバーを上げてから CD プレーヤーの取り出しボタンを押してください。
- CD プレーヤーユニットは精密機器です。本機を移動するときは、必ず CD を取り出してください。
- CD プレーヤーユニットのディスクを読み取るピックアップ部とディスクを回転させるモーター部は有寿命部品です。再生しにくくなったときは、販売店に連絡してください。
- 本機の CD プレーヤーユニットは、MP3 ファイルと WMA ファイルを再生することができます。ファイル名の拡張子は半角でそれぞれ [.mp3]、[.wma] としてください。
- 再生可能なファイルの仕様は、次のとおりです。

	MP3	WMA *1
規格	MPEG-1 Audio Layer-3	Windows Media Audio Ver. 9 *2
サンプリング周波数	32 kHz、44.1 kHz、48 kHz	44.1 kHz、48 kHz
ビットレート*3	32 k、40 k、48 k、56 k、64 k、80 k、96 k、112 k、128 k、160 k、192 k、224 k、256 k、320 kbps	48 k、64 k、96 k、128 k、160 k、192 kbps
最大再生時間	4 時間 15 分 59 秒	
チャンネル	モノラル、ステレオ、ジョイントステレオ、デュアル	モノラル、ステレオ
ファイル名の最大文字数	半角 32 文字または全角 16 文字	
タグ	規格	ID3 タグ Ver.2.2、2.3、2.4 *5
	表示する情報	タイトル名、アルバム名、アーティスト名
	最大表示文字数	全角のみ、または半角のみの場合、50 文字*4
		非対応

*1 DRM（デジタル著作権管理）非対応

*2 WMA9 Professional / WMA9 Lossless 非対応

*3 上記対応ビットレートの範囲でVBR対応。ただし、可変ビットレート再生時に時間がずれることがあります。

*4 全角と半角が混在した場合は、最大文字数まで表示できないことがあります。

*5 ID3 タグとは、MP3 ファイルに音楽タイトルやアーティスト名などを書き込んだ情報のことです。市販のソフトウェアなどを使用して情報を書き込むことで、各タグに対応した機器などで情報を表示させることができます。

本機でも、タグ情報のうち、タイトル・アルバム名・アーティスト名を表示させることができます。

- 本機の CD プレーヤーユニットは、市販の CD（オーディオ CD）の場合のみギャップレス再生ができます。

● 音源ファイルの再生の順番

市販 CD（オーディオ CD）の場合	CD-R の場合
表示されている曲順で再生されます。	本機で再生したい音源ファイルを、パソコンで CD-R にコピーします。音源ファイルは CD-R 直下に置いてください。再生される順番は CD-R にコピーされた順番になります。

ご注意 音源ファイル名は、再生の順番とは関係ありません。

■ CD 再生のしかた

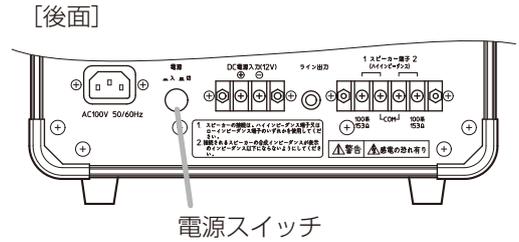
手順：CD 再生の前に、本機の電源を入れる。

電源スイッチは、本機の後面にあります。

× 毛

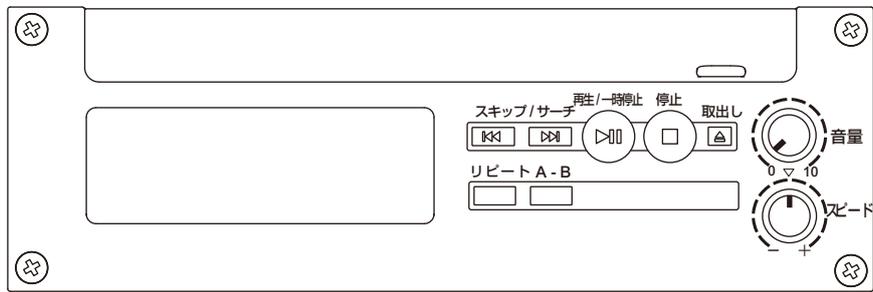
省電力機能があり、何も操作をしない状態で約 5 分経つと、CD プレーヤーユニットの電源が切れます。再生／一時停止状態では、5 分経過後も CD プレーヤーユニットの電源が切れることはありません。

CD を挿入するか、CD 音量とスピード調節つまみ以外のボタンのいずれかを押し、CD プレーヤーユニットの電源が入ります。



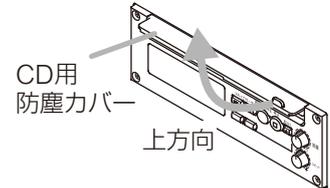
● 通常再生をする

CD プレーヤーユニット



1 CD をディスク挿入口に入れる。

CD 用防塵カバーをあげてディスクの印刷面（レーベル面）を上に入れてください。自動的に収納し、表示部に「CD 読み込み中...」が表示され読み込みをします。



C D 読 み 込 み 中 . . .

× 毛

読み込み可能な曲数は最大 999 曲です。

ご注意

- 非対応の CD を入れると次のようなメッセージが表示され、再生できません。

! C D 読 み 込 み 不 可

- MP3 ファイル、WMA ファイルを収録した CD-R の場合は、読み込みに 30 秒以上かかることがあります。

読み込みが完了すると、表示部に 3 秒間以下の内容を表示します。

(例：全 15 曲、全曲の合計演奏時間 1 時間 14 分 24 秒)

CD 015TR 1:14:24

ご注意

MP3 ファイル、WMA ファイルを収録した CD-R の場合は全演奏時間は表示されません。



3 秒経つと停止中の表示になります。
表示部に音源データのファイル名が表示されます。



2 再生／一時停止ボタン (▶||) を押す。

1 曲目から再生を開始します。

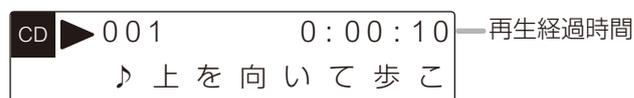
表示部に音源データのファイル名が表示されます。

MP3 ファイルの入った音源データの場合、表示部に ID3 タグ情報（タイトル、アルバム名、アーティスト名）が、ファイル名と交互に表示されます。

ファイル名表示時



ID3 タグ情報表示時



ご注意

- タイトル、アルバム名、アーティスト名を表示させるためには、ID3 タグ (ID3v2) へ情報を書き込んでおく必要があります。
- タイトル、アルバム名、アーティスト名、ファイル名の最大表示文字数は 50 文字です。
- 全角と半角が混在した場合は、最大文字数まで表示できないことがあります。

× モ

音源ファイルの再生順は、P. 13 のとおりになります。

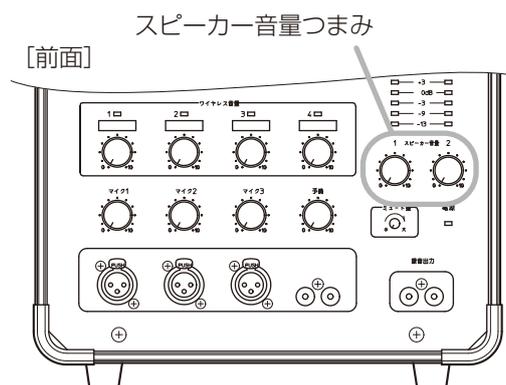
3 CD 音量つまみを 12 時の位置に合わせる。

4 スピーカー音量つまみで音量を調節する。

つまみを時計回りに回すと音が大きくなり、反時計回りに回すと音が小さくなります。

× モ

スピーカー音量つまみを「10」の位置にしても音量が不足するときは、CD 音量つまみを時計回りに回して調節してください。



5 再生途中で一時停止するときは、再生／一時停止ボタン (▶||) を押す。

一時停止状態になります。

※ 再び再生するときは、再生／一時停止ボタンをもう一度押してください。

ご注意

一時停止中にスキップ／サーチボタンを押すと、次のようにスキップしたのち、再生を開始します。

◀◀ボタンを押した場合： 再生開始後 2 秒未満のとき、1 つ前の曲の頭にスキップします。

再生開始後 2 秒以上のとき、再生中の曲の頭にスキップします。

▶▶ボタンを押した場合： 次の曲の頭にスキップします。

× モ

一時停止中は、表示部に次のように表示され、一時停止中マークと曲情報が点滅します。

一時停止中マーク



6 再生途中で別の曲にスキップするときは、スキップ／サーチボタン (◀◀、▶▶) を押す。

前の曲へスキップするとき	◀◀を 押す	再生開始後 2 秒未満に押したとき	1 つ前の曲の頭にスキップします。 ※ 最初の曲で押した場合は、最後の曲の頭にスキップします。
		再生開始後 2 秒以上経ってから押したとき	再生中の曲の頭にスキップします。
		押し続けたとき	早戻しになります。 早戻し中マーク 
次の曲へスキップするとき	▶▶を 押す	最後の曲以外で押したとき	次の曲の頭へスキップします。
		最後の曲で押したとき	最初の曲の頭にスキップします。
		押し続けたとき	早送りになります。 早送り中マーク 

ご注意

- 早戻し、早送りの速度は音源ファイルの種類や長さにより変わります。
- 音源ファイルによっては早戻し中に再生中の曲の頭にスキップしたり、早送り中に次の曲の頭にスキップしたりすることがあります。

7 再生を止めるときは、停止ボタン (■) を押す。

再生を停止して、再生していた曲を選曲した状態になります。

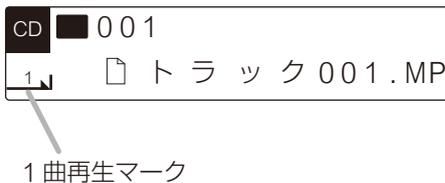
● 1 曲再生をする



1 CD をディスク挿入口に入れる。
(P.14)

2 スキップ／サーチボタン (◀◀、▶▶) で1 曲再生したい曲を選択する。

3 リピートボタンを何度か押して「1 曲再生」を選択する。
表示部左下に次のような1 曲再生マークが表示されます。



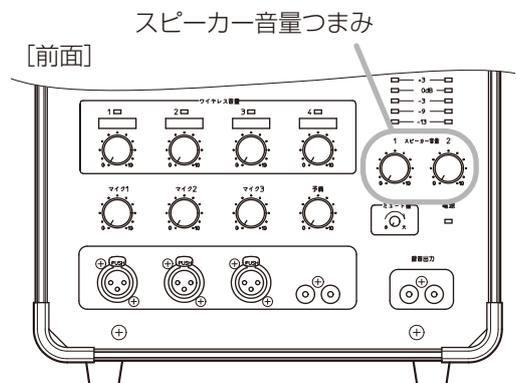
4 再生／一時停止ボタン (▶||) を押す。
選択した曲を1 回再生して、再生中の選曲した状態で停止します。

5 CD 音量つまみを12 時の位置に合わせる。

6 スピーカー音量つまみで音量を調節する。
つまみを時計回りに回すと音が大きくなり、反時計回りに回すと音が小さくなります。

× モ

スピーカー音量つまみを「10」の位置にしても音量が不足するときは、CD 音量つまみを時計回りに回して調節してください。



● 全曲リピート再生をする



1 CD をディスク挿入口に入れる。
(P. 14)

2 リPEATボタンを何度か押して「全曲リピート」を選択する。
表示部左下に次のような全曲リピートマークが表示されます。



3 再生/一時停止ボタン (▶||) を押す。
全曲を繰り返し再生します。

× モ

- 再生を中止したいときは、停止ボタンを押します。
- リPEAT回数に上限はありません。停止ボタンを押すまで再生を繰り返します。

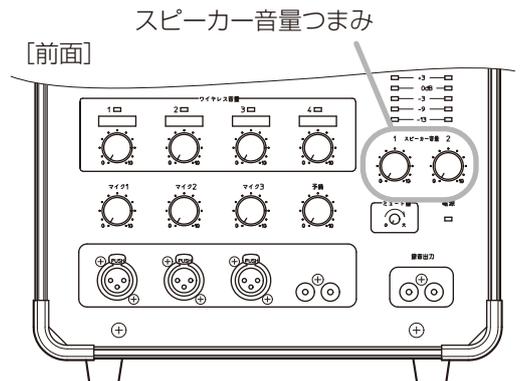
4 CD 音量つまみを 12 時の位置に合わせる。

5 スピーカー音量つまみで音量を調節する。

つまみを時計回りに回すと音が大きくなり、反時計回りに回すと音が小さくなります。

× モ

スピーカー音量つまみを「10」の位置にしても音量が不足するときは、CD 音量つまみを時計回りに回して調節してください。



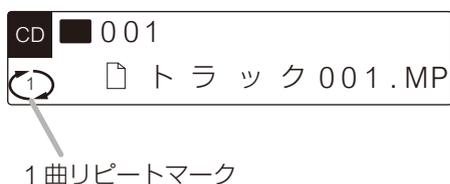
● 1 曲リピート再生をする



1 CD をディスク挿入口に入れる。
(P. 14)

2 スキップ/サーチボタンでリピート再生したい曲を選択する。

3 リピートボタンを何度か押して「1 曲リピート」を選択する。
表示部左下に次のような 1 曲リピートマークが表示されます。



4 再生/一時停止ボタンを押す。
選択した曲を繰り返し再生します。

☒ ☒

- 再生を中止したいときは、停止ボタンを押します。
- リピート回数に上限はありません。停止ボタンを押すまで再生を繰り返します。

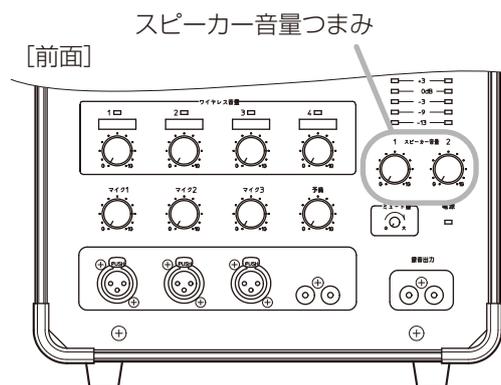
5 CD 音量つまみを 12 時の位置に合わせる。

6 スピーカー音量つまみで音量を調節する。

つまみを時計回りに回すと音が大きくなり、反時計回りに回すと音が小さくなります。

☒ ☒

スピーカー音量つまみを「10」の位置にしても音量が不足するときは、CD 音量つまみを時計回りに回して調節してください。



● A-B リピート再生をする

任意の A 地点と B 地点間を繰り返して演奏します。

ご注意

- A、B の設定は 1 曲中の連続した 1 区間だけです。
- A-B リピートを解除するには、A-B リピート再生中に A-B リピートボタンを押してください。(通常の再生状態に戻ります。)



1 CD をディスク挿入口に入れる。
(P. 14)

2 再生/一時停止ボタン (▶||) を押す。
必要に応じてスキップ/サーチボタンで曲を選択します。
(P. 16)

3 CD 音量つまみを 12 時の位置に合わせる。

4 スピーカー音量つまみで音量を調節する。
つまみを時計回りに回すと音が大きくなり、反時計回りに回すと音が小さくなります。

× モ

スピーカー音量つまみを「10」の位置にしても音量が不足するときは、CD 音量つまみを時計回りに回して調節してください。

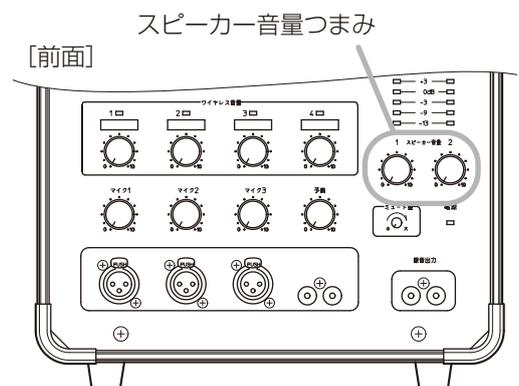
5 任意の A 地点を設定する。

A-B リピートボタンを押します。A 地点が設定され、表示部に次のような A 地点設定マークが表示されます。



A 地点設定マーク

ご注意 A 地点設定後は、A-B リピート設定を解除するまでは、早戻し・早送りができません。



6 任意の B 地点を設定する。

A 地点を設定後、リピート再生を終了させたい所で、もう一度 A-B リピートボタンを押します。B 地点が設定され、A 地点に戻り、A-B 間の再生を繰り返します。表示部は次のような A-B 間設定マークが表示されます。



A-B 間設定マーク

[設定例]

3 曲目の A から B までを繰り返して再生します。



ご注意 B 地点から A 地点に戻るときの時間は音源ファイルの種類により異なります。

7 再生を止めるときは、停止ボタン (■) を押す。

再生を停止して、再生中の曲を選曲した状態になります。

× モ

再生を止めると、A-B 間の設定は解除されます。

● 演奏スピードを変える

本機の CD プレーヤーユニットは、再生スピードを調節することができます。ダンスの練習のときなどに、音楽のスピード変えて拡声できます。



1 CD を再生状態にする。

(P. 14 「通常再生をする」)

× モ

スピード調節は、どの演奏状態でもできます。

2 CD 音量つまみを 12 時の位置に合わせる。

3 スピーカー音量つまみで音量を調節する。

つまみを時計回りに回すと音が大きくなり、反時計回りに回すと音が小さくなります。

✕モ

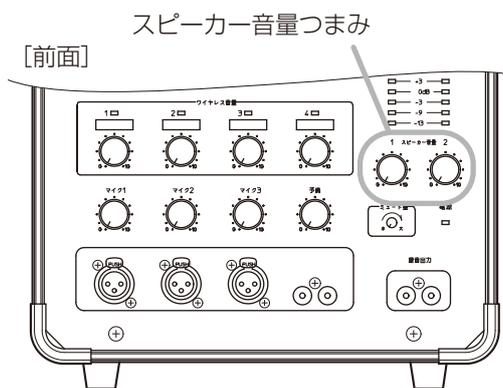
スピーカー音量つまみを「10」の位置にしても音量が不足するときは、CD音量つまみを時計回りに回して調節してください。

4 スピード調節つまみで演奏スピードを調節する。

調節の範囲は、約 -15% ~ 約 +20% です。

✕モ

再生スピードを調節してから再生状態にすることもできます。



■ エラー表示一覧

表示	説明	原因
❗ CD 未 挿 入	CD を挿入していない状態です。	CD が挿入されていない。
❗ CD 読 み 込 み 不 可	CD 挿入時に CD からデータの読み出しが行えなかった場合に表示されます。	<ul style="list-style-type: none"> ・ CD-R がファイナライズされていない。 ・ CD の不良 ・ CD 以外のメディア (DVD など) が挿入されている。
❗ 再 生 不 可	<p>選曲した音源ファイルからデータの読み出しが正常に行えなかった場合に表示されます。</p> <p>✕モ</p> <p>正常な CD でもこの表示が出ることがあります。もう一度、ディスクを出し入れしてみてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音源ファイル (MP3、WMA) が壊れている。 ・ 音源のサンプリング周波数、ビットレートが対応外。 ・ CD の不良
❗ 異 常 が 発 生 し ま し た	本機が正常に動作できなくなった場合に表示されます。このエラーが発生した場合は、当社営業所までご連絡ください。	ファームウェアが正常に起動できなかった。

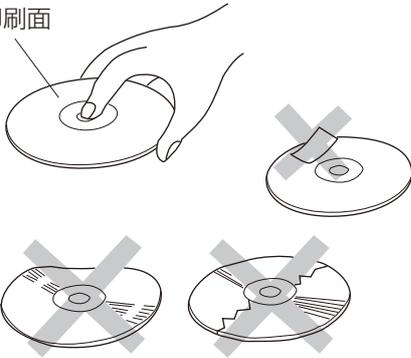
■ コンパクトディスクの取り扱いかた

コンパクトディスクの汚れ、ごみ、傷、そりなどが音飛びや音質の低下など誤動作の原因となることがあります。美しい音で楽しめるよう次のことにご注意ください。



左記マークの付いているコンパクトディスクおよび書き込み済みの CD-R をご使用ください。

印刷面



- ディスクを持つときは、演奏面をできるだけさわらないようにしてください。
- 印刷面や演奏面に、紙やシールなどを貼り付けたり傷を付けたりしないようにしてください。
- セロハンテープやレンタル CD のラベルなどの糊がはみ出したり、はがしたりしたあとがあるディスクは使用しないでください。ディスクが取り出せなくなったり本機が故障したりする原因となることがあります。
- 演奏中のディスクは高速回転しますので、ひびの入ったディスクや大きくそったディスクは使用しないでください。



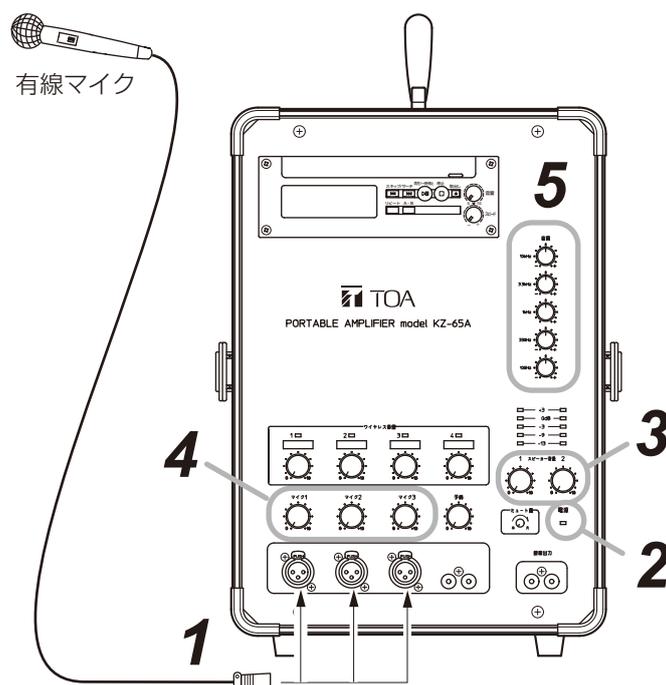
- そらないように必ずケースに入れ、直射日光の当たる場所には保管しないでください。特に夏期、直射日光下で閉めきった車の中などは、かなり高温になりますので放置しないでください。
- CD-R に書き込まれたものは特に直射日光に当てないように保管してください。



- 使用する前に演奏面に付いたほこり、ごみ、指紋などを柔らかい布でディスクの内周から外周方向へ軽く拭いてください。
- レコードクリーナー、帯電防止剤などは使用しないでください。またベンジン、シンナーなどの揮発性の薬品をかけるとディスクを傷めることがありますので使用しないでください。

- 12 cm CD と 8 cm CD について
コンパクトディスクには、直径の大きさにより 12 cm タイプと 8 cm タイプの 2 種類があります。本機では、8 cm CD および 8 cm CD アダプターは使用できません。8 cm CD および 8 cm CD アダプターを挿入すると、取り出しができなくなることがあります。
- 市販のレンズクリーナーディスクは使用しないでください。

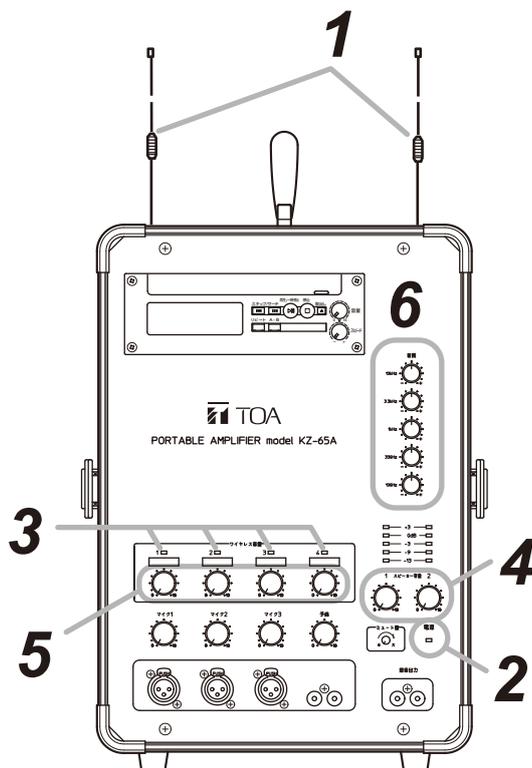
有線マイクの使いかた



- 1** 有線マイクをマイク 1、マイク 2、またはマイク 3 の入力端子に接続する。
- 2** 電源スイッチ（後面）を入れ、電源表示灯（前面）が点灯していることを確かめる。
- 3** スピーカー音量つまみで音量を調節する。
スピーカー音量つまみ 1、2 で全マイクのみキシング音量を調節します。
- 4** 有線マイク音量つまみで音量を調節する。
接続したマイクに対応した音量つまみでマイクの音量を調節します。
- 5** 音質を調節する。
音質調節つまみ（5 ポイントイコライザー）で調節します。

ワイヤレスマイクの使いかた

■ 操作のしかた



1 付属のアンテナ 2 本を後面のワイヤレスアンテナ接続端子に取り付ける。

※ 必ず 2 本とも取り付けてください。

☒ ☐

付属のアンテナを使用しないで、別売のワイヤレスアンテナ YW-560、YW-550、または YW-540 を使用することもできます。

2 電源スイッチ（後面）を入れ、電源表示灯（前面）が点灯していることを確かめる。

3 ワイヤレスマイク（別売）の電源スイッチを入れる。

ワイヤレス受信表示灯が点灯します。

4 スピーカー音量つまみで音量を調節する。

スピーカー音量つまみ 1、2 で全マイクのみキシング音量を調節します。

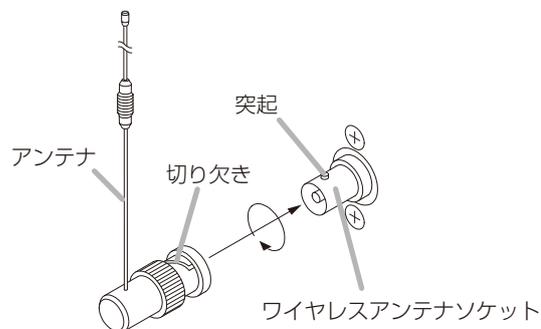
5 ワイヤレスマイク音量つまみで音量を調節する。

ワイヤレス受信表示灯が点灯したワイヤレスマイク音量つまみでマイクの音量を調節します。

6 音質を調節する。

音質調節つまみ（5 ポイントイコライザー）で調節します。

アンテナの取り付けかた



- ワイヤレスアンテナソケットの突起にアンテナの切り欠きを合わせて差し込み、アンテナのリングを時計回りに止まるまで回してください。
- アンテナはまっすぐ上に立ててください。

■ 使用上のご注意

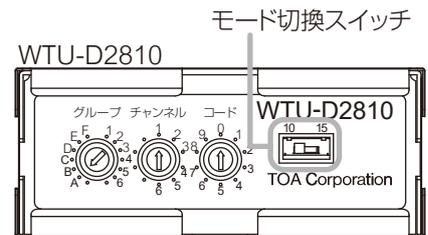
● 機器の組み合わせ

- 本機には 2 台のチューナーユニット WTU-1820 が内蔵されています。
- チューナーユニットの増設には、次の製品が使用できます。
WTU-1820 (アナログ、ダイバシティ)、WTU-D2810 (デジタル、ダイバシティ)
- WTU-1820 と WTU-D2810 は、混在させて使用できます。
- WTU-D2810 を 3 台または 4 台使用する場合は、内蔵の WTU-1820 と入れ換えが必要です。
- ワイヤレスマイクは使用するチューナーユニットに合わせて、TOA 800 MHz 帯 B 型ワイヤレスマイクまたは 800 MHz 帯デジタルワイヤレスマイクを使用してください。

チューナーユニット	通信方式	使用できるワイヤレスマイク (別売)	
WTU-1820	アナログ	800 MHz 帯 B 型ワイヤレスマイク	WM-1220、WM-1320 など
WTU-D2810	デジタル	800 MHz 帯デジタルワイヤレスマイク	WM-D1210、WM-D1310 など

ご注意

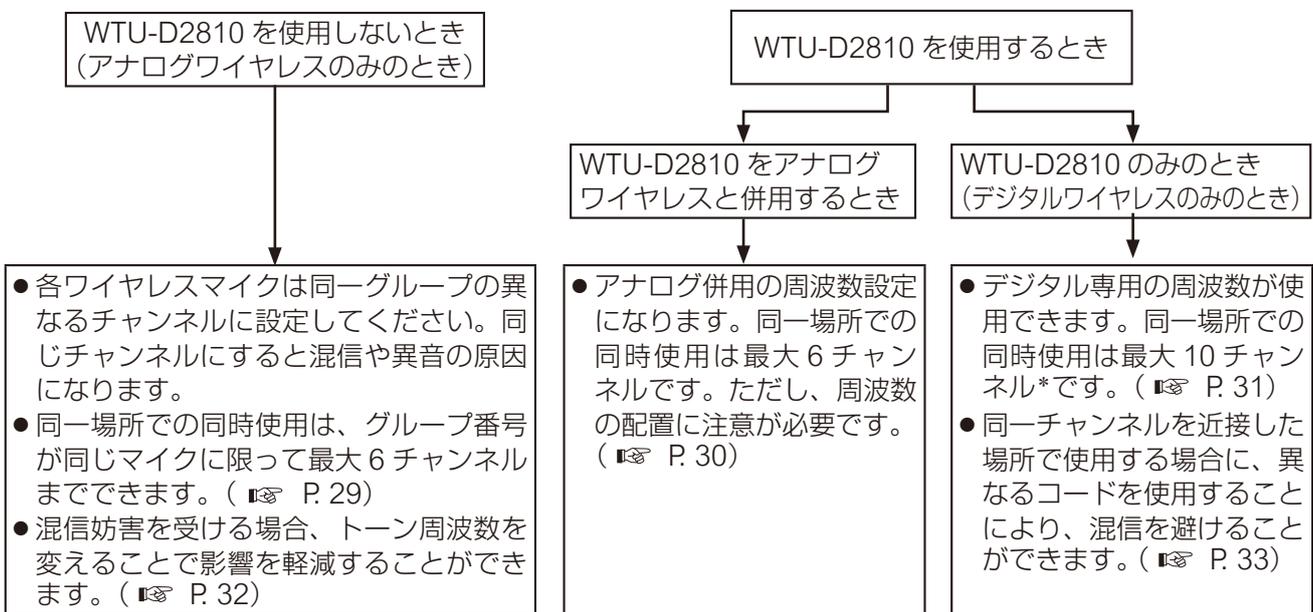
WTU-D2810 を使用するときには、WTU-D2810 とワイヤレスマイクのモード切換スイッチを「10 ch モード (お買い上げ時の設定)」にしてください。モード切換スイッチがないワイヤレスマイクはそのまま使用できます。



● 周波数の設定が必要なとき

- 同じ周波数のマイクは同時に使用できません。
- ワイヤレスアンプの電源スイッチを「入」にして、ワイヤレスマイクの電源を入れる前にワイヤレスアンプの受信表示灯が点灯または点滅するときは、設定されたチャンネルが使用中です。他のチャンネルに変更してください。
- チューナーユニットを増設したり、使用中に混信が発生するときは、周波数の設定を変更してください。混信が発生すると、音の途切れや異音が出ることがあります。

● アナログワイヤレスとデジタルワイヤレスの混在について



* 最大 15 チャンネルを同一場所で使用することもできますが、設定のしかたが異なります。詳しくは WTU-D2810 の「周波数設定ガイド」をお読みください。「周波数設定ガイド」は TOA 商品データダウンロードサイト (<https://www.toa-products.com/>) の WTU-D2810 のページからダウンロードできます。

● 各機器間の距離

- ワイヤレスアンプとワイヤレスマイクの距離は 3 m から 20 m 程度で使用してください。
- 3 m 以内で使用すると雑音が発生したり、混信の原因になることがあります。
- 2 つの異なるチャンネルを同時に使用するとき、2 つのマイク間の距離は 50 cm 以上離してください。

■ ワイヤレスチューナーユニットの増設のしかた

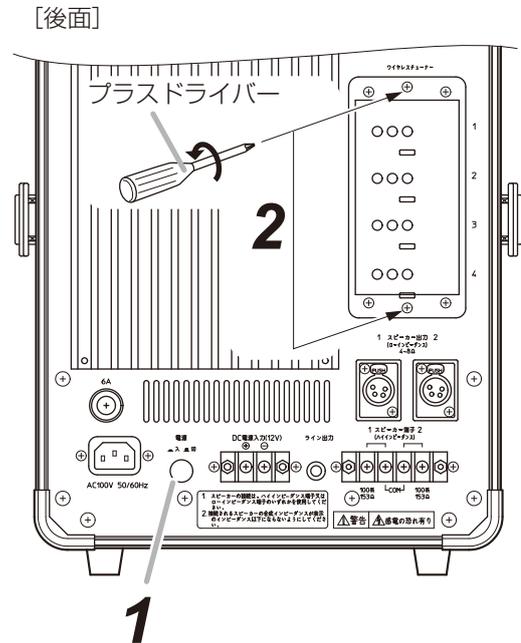
チューナーユニットを増設するときは、指定のチューナーユニット（ 前ページ）を増設してください。

ご注意

チューナーユニットが指定の品番であることを確認してから増設してください。

1 後面の電源スイッチを「切」にする。

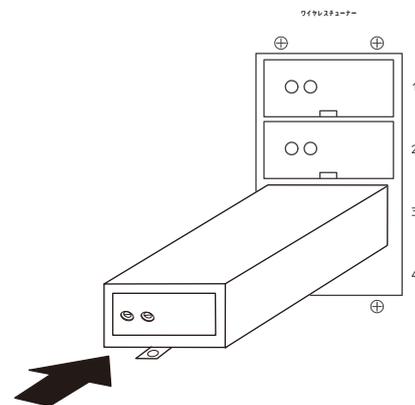
2 収納ふたを外す。



3 チューナーユニットを下図のように挿入し、奥のコネクターに確実に差し込む。

ご注意

チューナーユニットの上下を間違えないようにご注意ください。



4 チューナーユニット装着後は、収納ふたを元どおりに取り付ける。

ご注意

- 収納ふたは必ず取り付けてください。取り付けないと、チューナーユニットが外れることがあります。
- 収納ふたを取り付けた状態で設定スイッチを変更できるように、元どおりの方向に取り付けてください。

5 チューナーユニットのグループ番号とチャンネル番号を設定する。

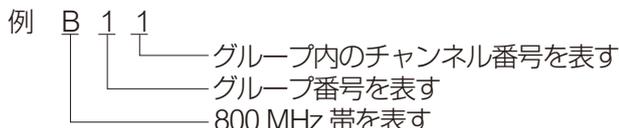
設定のしかたは「周波数の設定のしかた」（ P. 28）をお読みください。

■ 周波数の設定のしかた

内蔵チューナーユニットのグループ番号、チャンネル番号は、お買い上げ時に以下の設定になっています。チューナーユニットを増設したり、使用中に混信妨害が発生したときには設定を変更してください。

ワイヤレス 1 に内蔵のチューナーユニットの設定	ワイヤレス 2 に内蔵のチューナーユニットの設定
グループ番号 4、チャンネル番号 1 (チャンネル呼称 B41)	グループ番号 4、チャンネル番号 2 (チャンネル呼称 B42)

● 800 MHz 帯ワイヤレスマイクのチャンネル呼称について



● 設定のしかた

1 設定するグループとチャンネル番号を決める。

デジタルワイヤレスチューナーユニット WTU-D2810 を使用する場合としない場合で異なります。

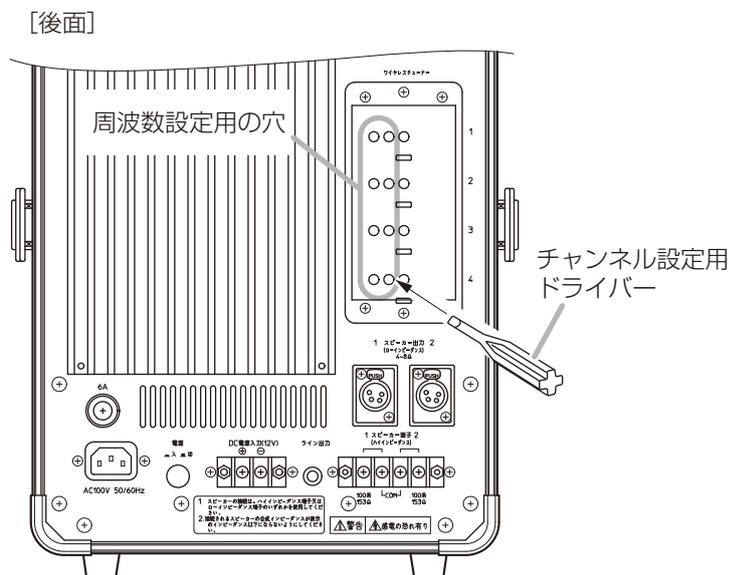
使用しない場合 次ページ「グループとチャンネル番号の決めかた (WTU-D2810 を使用しない場合)」

使用する場合 P. 30 「グループとチャンネル番号の決めかた (WTU-D2810 を使用する場合)」

2 本機の電源スイッチを切る。

3 設定スイッチの矢印を、あらかじめ決めたグループおよびチャンネル番号の数字に設定する。

設定には、本機に付属のチャンネル設定用ドライバー、または増設チューナーユニットに付属の設定用ドライバーを使用してください。



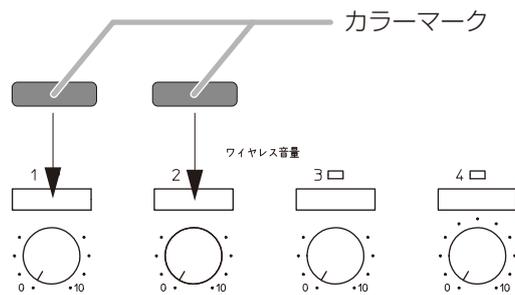
4 ワイヤレスマイクのグループおよびチャンネル番号を、チューナーユニットと同じグループおよびチャンネル番号に設定する。

【ご注意】

ワイヤレスマイクに付属の設定ドライバーで、設定スイッチの矢印をチューナーユニットと同じグループおよびチャンネル番号の数字に設定してください。

詳しくは、ワイヤレスマイクの取扱説明書をお読みください。

5 音量つまみの上部にあるカラーマーク貼付位置に、ワイヤレスマイクと同じ色のカラーマークを貼る。



チューナーユニット収納部の番号 1、2、3、4 とワイヤレスマイク音量つまみ上部の番号 1、2、3、4 がそれぞれ対応しています。

● グループとチャンネル番号の決めかた (WTU-D2810 を使用しない場合)

下記の周波数表にあるグループとチャンネルの組み合わせで使用してください。

ご注意

ワイヤレスマイクを同時に 2 本以上使用するとき、必ず同じグループの中から異なるチャンネルを選んでください。

[周波数表 (アナログ)]

グループ	チャンネル	呼称	周波数 (MHz)	グループ	チャンネル	呼称	周波数 (MHz)	グループ	チャンネル	呼称	周波数 (MHz)
1	1	B11	806.125	3	1	B31	806.625	5	1	B51	807.625
	2	B12	806.375		2	B32	806.875		2	B52	808.125
	3	B13	807.125		3	B33	807.375		3	B53	808.375
	4	B14	807.750		4	B34	808.250		4	B54	808.750
	5	B15	809.000		5	B35	808.625		5	B55	809.625
	6	B16	809.500		6	B36	809.250	6	1	B61	807.250
2	1	B21	806.250	4	1	B41	806.750				
	2	B22	806.500		2	B42	807.500				
	3	B23	807.000		3	B43	808.000				
	4	B24	807.875		4	B44	809.125				
	5	B25	808.500		5	B45	809.375				
	6	B26	808.875		6	B46	809.750				

● グループとチャンネル番号の決めかた（WTU-D2810 を使用する場合）

WTU-D2810 は、お買い上げ時にはグループ番号 A、チャンネル番号 1（チャンネル呼称 BA1）に設定されています。

周波数表にあるグループとチャンネルから、手順に従ってグループとチャンネル番号を決めて、使用してください。

[同じ場所でアナログワイヤレスシステムを併用する場合（最大 6 波）]

アナログチューナーユニット（内蔵のチューナーユニットを含む）と併用する場合は、アナログ併用のグループ、チャンネルを使用します。

1 右の周波数表（アナログ併用）を参照し、グループを「1」～「5」から 1 つ選択する。

※ グループ 6 は使用できるチャンネル数が 1 つしかないので、対象となりません。

2 その中から使用可能なチャンネルを 1 つ選択する。

グループにより使用できるチャンネル数は異なります。（下表を参照）

グループ	チャンネル
1	1～6
2	1～6
3	1～6
4	1～6
5	1～5

例えば周波数表のグループ「1」の場合、「B11」～「B16」までが使用可能なチャンネルとなります。

[周波数表（アナログ併用）]

※ GR：グループ、CH：チャンネル

設定	グループ						周波数 (MHz)	
	GR	CH	1	2	3	4		5
1	1	B11						806.125
2	1		B21					806.250
1	2	B12						806.375
2	2		B22					806.500
3	1			B31				806.625
4	1				B41			806.750
3	2			B32				806.875
2	3		B23					807.000
1	3	B13						807.125
6	1						B61	807.250
3	3			B33				807.375
4	2				B42			807.500
5	1					B51		807.625
1	4	B14						807.750
2	4		B24					807.875
4	3				B43			808.000
5	2					B52		808.125
3	4			B34				808.250
5	3					B53		808.375
2	5		B25					808.500
3	5			B35				808.625
5	4					B54		808.750
2	6		B26					808.875
1	5	B15						809.000
4	4				B44			809.125
3	6			B36				809.250
4	5				B45			809.375
1	6	B16						809.500
5	5					B55		809.625
4	6				B46			809.750

ご注意

で示された 2 つの周波数を同時に使用する場合は、いずれもアナログワイヤレスシステムを使用するように周波数の配置をしてください。デジタルとアナログ、両方ともデジタルの組み合わせで使用することはできません。

以外の周波数は、アナログでもデジタルでも割り当てできます。

（例 1：アナログマイク 1 本、デジタルマイク 5 本の場合）

- この組み合わせでは使用できません。

（例 2：アナログマイク 1 本、デジタルマイク 4 本の場合）

- グループ 1～4 で使用してください。グループ 5 では使用できません。
- 例えばグループ 1 で使用する場合、B11 と B12 はどちらか一方しか使用できません。

チャンネル呼称	使用可能マイク	
	使用例①	使用例②
B11	デジタル／アナログ	使用しない
B12	使用しない	デジタル／アナログ
B13	デジタル／アナログ	
B14		
B15		
B16		

(例 3：アナログマイク 2 本、デジタルマイク 2 本の場合)

- 例えばグループ 1 で使用する場合、B11 と B12 の両方を使用するときは、その 2 つの周波数にはアナログマイクを配置してください。(使用例④)

チャンネル呼称	使用可能マイク			
	使用例①	使用例②	使用例③	使用例④
B11	デジタル／アナログ	使用しない	使用しない	アナログ
B12	使用しない	デジタル／アナログ (いずれか 4 波を選択)		
B13	デジタル／アナログ (いずれか 3 波を選択)		デジタル／アナログ (いずれか 2 波を選択)	
B14				
B15				
B16				

[同じ場所でデジタルワイヤレスシステムのみを使用する場合 (最大 10 波)]

本機に内蔵のチューナーユニットを使用しないでWTU-D2810のみを使用する場合は、デジタル専用のグループ、チャンネルが使用できます。

1 右の周波数表 (デジタル専用) を参照し、グループを「A」～「F」から 1 つ選択する。

2 その中から使用可能なチャンネルを 1 つ選択する。

各グループとも 5 チャンネルまで使用できます。例えば周波数表の「A」グループの場合、A 列の「BA1」～「BA5」までが使用可能なチャンネルとなります。

3 1～5 波まで使用するときには、手順 1 で決めたグループと同じグループの中からチャンネルを選択する。

4 6～10 波まで使用するときには、手順 1 で決めたグループと同時使用可能なグループの中からチャンネルを選択する。(下表を参照)

グループ	チャンネル	
A	1～5	同時使用可能なプラン
B	1～5	
C	1～5	同時使用可能なプラン
D	1～5	
E	1～5	同時使用可能なプラン
F	1～5	

[周波数表 (デジタル専用)]

※ GR：グループ、CH：チャンネル

設定	GR	CH	グループ				周波数 (MHz)	
			A	B	C	D		E
F	1						BF1	806.125
D	1				BD1			806.250
B	1		BB1					806.375
E	1					BE1		806.500
C	1				BC1			806.625
A	1	BA1						806.750
F	2						BF2	806.875
D	2				BD2			807.000
B	2		BB2					807.125
E	2					BE2		807.250
C	2				BC2			807.375
A	2	BA2						807.500
F	3						BF3	807.625
D	3				BD3			807.750
B	3		BB3					807.875
E	3					BE3		808.000
C	3				BC3			808.125
A	3	BA3						808.250
F	4						BF4	808.375
D	4				BD4			808.500
B	4		BB4					808.625
E	4					BE4		808.750
C	4				BC4			808.875
A	4	BA4						809.000
F	5						BF5	809.125
D	5				BD5			809.250
B	5		BB5					809.375
E	5					BE5		809.500
C	5				BC5			809.625
A	5	BA5						809.750

■ トーンスイッチについて (WTU-1820 使用時のみ)

このスイッチ設定を変更するときには販売店にご相談ください。

● 「トーン」のはたらき

ワイヤレスマイクの電源が入っていないときや、ワイヤレスマイクの電源は入っていても妨害電波が強いときに、ワイヤレスアンプから妨害電波の信号や雑音が聞こえることがあります。

この対策として、トーン信号の含まれていないワイヤレスマイクの電波は、音声を出力しないようにしています。シンセサイザー方式のワイヤレスマイクおよびチューナーユニットはこのトーン信号を3種類搭載しており、状況により切り換えることができます。

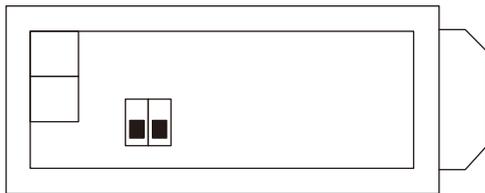
ご注意

混信が非常に強い場合は、トーン信号の周波数を変えても正常に使用できないことがあります。

● トーンスイッチの設定のしかた

1 チューナーユニットの増設のしかたを参考にして、チューナーユニットを引き出す。

2 チューナーユニットのふたを外す。



WTU-1820

3 基板上的2列のトーンスイッチをボールペンの先などで設定する。

トーン信号の周波数はスイッチ位置により下表のように変化します。

スイッチ位置	1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> OFF	1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> OFF	1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> OFF	1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> OFF
トーン信号周波数	B1、B3 グループ 32.768 kHz B2、B4 グループ 32.718 kHz B5、B6 グループ 32.818 kHz	すべてのグループ 32.718 kHz	すべてのグループ 32.768 kHz	すべてのグループ 32.818 kHz

ご注意

- トーンスイッチを切り換える際、内部の調整箇所は絶対に回さないでください。
- ワイヤレスマイクとチューナーユニットは、グループ、チャンネル番号およびトーン信号の周波数がそれぞれ一致しないと正しく受信できません。
- お買い上げの際はトーンスイッチの位置は1、2ともにOFFの位置に設定しています。
- この機能は、トーンスイッチのついていないワイヤレスマイクとチューナーユニットの組み合わせでのみ使用できます。トーンスイッチのついていない機器の組み合わせでは、スイッチ1、2ともにOFFの位置で使用してください。

4 ワイヤレスマイクにも同じトーンを設定する。

設定のしかたはワイヤレスマイクの取扱説明書をお読みください。

■ コード設定 (WTU-D2810 使用時のみ)

● コード設定の概要

ワイヤレスマイクとチューナーの間であらかじめコードを決めておき、ワイヤレスマイクから受信するデジタル信号の中にチューナーと同じコードが含まれていれば、音声が出力されます。もし、妨害源となる信号を受信しても、コードが一致しなければ、音声は出力されません。

「0」～「9」までの10種類のコードを搭載しており、状況に応じて切り換えが可能です。

同一チャンネルを近接した場所で使用する場合に、異なるコードを使用することにより、混信を避けることができます。

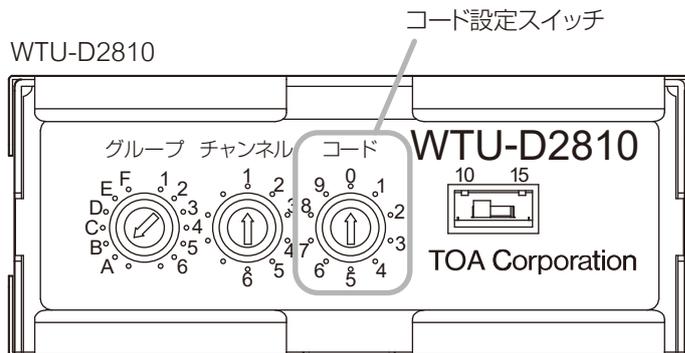
● コード設定のしかた

お買い上げ時には、コードは「0」に設定されています。

1 本機の電源スイッチを切る。

2 コード設定スイッチの矢印を変更したい数字に合わせる。

本機またはチューナーユニットに付属の設定ドライバーを使用してください。



3 ワイヤレスマイクにも同じコードを設定する。

設定のしかたはワイヤレスマイクの取扱説明書をお読みください。

上手なミキシングのしかた

本機には、有線マイク 3 回路、ワイヤレスマイク 4 回路、CD プレーヤーと入力がたくさん付いています。そこで上手にミキシングを行う方法の 1 つを紹介しますので、参考にして本機を使いこなしてください。

● 有線マイク

本機の有線マイクの回路は、オフマイク（マイクと話す人の口までの距離が 30 cm 以上離れていることの総称で、講演会などでの使いかた）でも十分使えるように入力感度を高くしてあります。オンマイク（マイクと話す人の口までが 5 cm 以下のことの総称で、カラオケなどでの使いかた）のときは、音量つまみ（ボリューム）の回転角度（上げしろ）が少なくなります。全体の音量はスピーカー音量つまみで行ってください。使用しないマイク回路の音量つまみは「0」（最小位置）にしてください。音量つまみが上がっていると雑音が増えます。

● ワイヤレスマイク

ワイヤレスマイクは主としてハンドマイク（マイクを手持ち）で使うことが多いと想定されますので、用途に適した感度を設定しています。

ワイヤレス受信表示灯が点灯した音量つまみでミキシングしてください。

ワイヤレス受信表示灯が点灯しない回路は、音量つまみを「0」（最小位置）にしてください。音量つまみが上がっていると雑音が増えます。

● 有線マイク、ワイヤレスマイクは、すべてミキシングです。

有線マイク、ワイヤレスマイクの音量つまみは、上げすぎないようにバランスよくミキシングしてください。全体の音量はスピーカー音量つまみで行ってください。

● ミュート回路が内蔵されています。

有線マイクまたはワイヤレスマイクでアナウンスをすると、CD プレーヤーおよび予備入力の BGM などの音量を自動的に減衰させます。

詳しくは P. 8 「ミュート量の調節」をお読みください。

● CD プレーヤーの音量について

コンパクトディスク（CD）は、曲（ジャンル）によって録音レベルが異なります。

スピーカー音量つまみを上げても音量が足りないときは、CD 音量つまみで音量を調節してください。

故障かな？と思ったら

症状	点検項目	処置
電源スイッチを「入」にしても電源表示灯が点灯しない。(電源が入らない。)	【AC電源で使用のとき】 電源コードが本体とコンセントに接続されていますか？	本体のAC電源インレットとコンセントに、電源コードを接続してください。
	【DC12Vバッテリーで使用のとき】 DC電源の接続コードが本体とバッテリーに接続されていますか？	DC電源の接続コードを確実に接続してください。 ※ バッテリーの電圧を測って10V以下ならば充電済みのバッテリーと交換してください。
電源表示灯が点滅する。	【12Vバッテリーで使用のとき】 バッテリーは充電されていますか？ バッテリーの容量が小さいのではありませんか？	完全に充電されたバッテリーをお使いください。長時間お使いのときは、大容量のバッテリーに交換してください。
音が出ない。	スピーカーが接続されていますか？	スピーカーを確実に接続してください。
	音量つまみが「0」になっていませんか？	音量つまみを時計回りに回してください。
使用中に突然音が出なくなった。	機器内部の温度が高くなるような環境で使用していませんか？	本機を風通しの良い場所へ移動させてお使いください。

【ワイヤレスマイクを使用のとき】

症状	点検項目	処置
受信表示灯が点灯しない。(受信しない)	チューナーユニットが入っていますか？	チューナーユニットを入れてください。
	ワイヤレスマイクの電源スイッチはONになっていますか？	ワイヤレスマイクの電源スイッチをONにしてください。
	ワイヤレスマイクの乾電池は消耗していませんか？	新しい乾電池と交換してください。
	ワイヤレスマイクのチャンネル(B○○)とチューナーユニットの(B○○)が合っていますか？	ワイヤレスマイクとチューナーユニットのグループ・チャンネル番号設定で、チャンネル(B○○)を同じにしてください。
受信表示灯が点滅する。(WTU-D2810を組み込んでいる場合のみ)	コード設定は正しいですか？	チューナーユニットとワイヤレスマイクのコード設定を同じにしてください。(P.33)
	モード設定は正しいですか？	チューナーユニットとワイヤレスマイクのモード設定を同じにしてください。(P.26)
	マイクの電源をOFFにしても受信表示灯は点滅していますか？	マイクの電源がOFFでも点滅していれば、妨害電波の受信が考えられます。周波数の設定を変更してください。(P.28)
音が出ない。	音量つまみが「0」になっていませんか？	音量つまみを時計回りに回してください。

【CDプレーヤーユニットを使用のとき】

症状	点検項目	処置
コンパクトディスク(CD)が入らない。	すでに、ディスクが1枚入っていますか？	入っているディスクを取り出してから次のディスクを入れてください。

症 状	点検項目	処 置
CD を入れても出てきてしまふ。	ディスクがひどく汚れていませんか？	ディスクのクリーニングをしてください。(P.23)
	直射日光が当たるなどして、機器の温度が極端に高くなっていませんか？	風通しの良い日陰に設置して、機器の温度が下がるようにしてください。
	————	タイミングにより入らないことがあります。もう一度入れ直してください。
	ディスクが CD-RW ではないですか？	CD-R に書き換えてください。
	ファイナライズされていない CD-R を使っていませんか？	CD-R をファイナライズしてください。
CD の読み込みに 1 分以上かかる。	ディスクが不良ではありませんか？	ディスクを取り出して、再度読み込むことで解消することがあります。それでも解消しないときは、他のディスクを再生してみてください。良くなれば、ディスクの不良が考えられます。
突然表示が消えた。	何も操作せずに 5 分以上経っていませんか？	再生/一時停止ボタン、停止ボタン、取出しボタンのいずれかを押すと再度表示します。
CD の音が飛んだり、同じところを演奏したりする。	ディスクが不良ではありませんか？	他のディスクを再生してみてください。良くなれば、ディスクの不良が考えられます。
	ディスクがひどく汚れていませんか？	ディスクのクリーニングをしてください。(P.23)
音が極端に小さい、または音が出ない。	CD 音量つまみが「0」になっていませんか？	CD 音量つまみを時計回りに回してください。
	ミュート量が最大になっていませんか？	ミュート量を調節してください。(P.8)
CD の音質が悪い。	ディスクが不良ではありませんか？	他のディスクを再生してみてください。良くなれば、ディスクの不良が考えられます。
	ディスクがひどく汚れていませんか？	ディスクのクリーニングをしてください。(P.23)
	結露していませんか？	他のディスクを再生してみてください。良くなれば、ディスクの不良が考えられます。
CD が取り出せない。 ※ ディスクを入れたまま電源スイッチを切ったり、電源プラグを抜いたりすると、ディスクが取り出せません。右の処置を施した後、取り出しボタンを押してディスクを取り出してください。	電源スイッチが切れていませんか？	電源スイッチを入れてください。
	電源プラグがコンセントから抜けていませんか？	電源プラグをコンセントに差し込み、電源スイッチを入れてください。
再生スピードが通常と違う。	スピード調節つまみが「-」または「+」側になっていませんか？	つまみの指針を中央に戻してください。
音量つまみを最小の位置にしても再生している音がすかに聞こえる。	(本機では、音量つまみを最小の位置にしても、音量を絞り切ることはできません。)	音量を完全に絞り切りたい場合は、一時停止状態にしてください。
「CD ■ 000」が表示される。	ディスクに音源が入っていますか？	音源の入ったディスクを挿入してください。
	正常に読み込めていますか？	ディスクを取り出して、再度読み込むことで解消することがあります。

著作権について

- テレビ、ラジオ放送、レコード、CD などから録音したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- したがって、それらから録音した音源を売ったり、配ったり、譲ったり、貸したりする場合、および営利のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。
- 使用条件は、場合によって異なりますので、詳しい内容や申請その他の手続きについては、「日本音楽著作権協会」(JASRAC) へお尋ねください。

社団法人 日本音楽著作権協会

● 本部

〒151-8540 東京都渋谷区上原 3-6-12 TEL (03) 3481-2121 (代表)
URL <https://www.jasrac.or.jp>

仕 様

品 番	KZ-30A	KZ-65A
電 源	AC100 V、50/60 Hz DC14 V (自動車用 12 V バッテリー使用)	
定 格 出 力	30 W × 2 (330 Ω × 2 平衡、4 Ω × 2 平衡)	65 W × 2 (153 Ω × 2 平衡、4 Ω × 2 平衡)
最 大 出 力	45 W × 2	100 W × 2
消 費 電 力 / 電 流	AC 動作時：211 W (定格出力時)、 85 W (電気用品安全法による) DC 動作時：最大 13 A	AC 動作時：470 W (定格出力時)、 190 W (電気用品安全法による) DC 動作時：最大 21 A
周 波 数 特 性	100 Hz ~ 10 kHz	
S N 比	70 dB 以上	
歪 率	5% 以下 (1 kHz、定格出力時)	
入 力	有 線 マ イ ク	3 回路、-66 dB*、平衡、XLR-3-31 相当品 適合マイク：150 ~ 600 Ω
	ワイヤレスマイク	4 回路 (2 回路：ダイバシティチューナー内蔵)
出 力	予 備	-20 dB*、10 kΩ、不平衡、RCA ピンジャック × 2
	ス ピ ー カ ー 1、2	4 Ω (4 ~ 8 Ω スピーカー使用可) × 2、XLR-4-31 相当品
カ ラ イ ン	録 音	0 dB*、10 kΩ、不平衡、RCA ピンジャック × 2
	音 質 調 節	0 dB*、600 Ω、不平衡、φ6.3 ホーンジャック (2P) × 1
ア ン テ ナ 方 式	高利得ホイップアンテナ	
チューナーユニット	WTU-1820、WTU-D2810：合計 4 台 (WTU-1820 2 台内蔵)	
C D 部	ディスク：12 cmCD (8 cmCD 不可)、CD-R 演奏可能形式： <ul style="list-style-type: none"> ●オーディオ CD (CD-DA) ●MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3) サンプル周波数：32 kHz/44.1 kHz/48 kHz ビットレート：32/40/48/56/64/80/96/112/128/160/192/224/ 256/320 kbps ●WMA (Windows Media Audio) サンプル周波数：44.1 kHz/48 kHz ビットレート：48/64/96/128/160/192 kbps スピード可変範囲：約 -15 ~ 約 +20% ローディング：スロットイン方式 機能：1 曲リピート、全曲リピート、A-B リピート	
使 用 温 度 範 囲	0 ~ 40°C	
使 用 湿 度 範 囲	30 ~ 85%RH (ただし結露のないこと)	
仕 上 げ	キャリングケース：アルミエンボス加工、シルバー パネル：圧延鋼板、黒 (マンセル N1.0 近似色)、塗装、3 分艶	
寸 法	303 (幅) × 432 (高さ) × 492 (奥行) mm	
質 量	16 kg	19 kg
適 合 ス ピ ー カ ー	KZ-155、KZ-650A、 KZ-1200/1200E (スピーカーに接続ケーブル付属)	KZ-650A、KZ-1200/1200E (スピーカーに接続ケーブル付属)

* 0 dB = 1 V

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

※ Windows Media は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

※ その他の会社名および製品名も各社の商標です。

● 付属品

アンテナ	2	カラーマーク (6色)	1
電源コード (2 m)	1	ヒューズ*	1
チャンネル設定用ドライバー	1	* KZ-30A は 4 A、KZ-65A は 6 A	

● 別売品

ダイバシティチューナーユニット：WTU-1820 (アナログ)、WTU-D2810 (デジタル)

※ ワイヤレスマイクは、WTU-1820 の場合はアナログ方式、WTU-D2810 の場合はデジタル方式を別途ご用意ください。

<p>TOA お客様相談センター</p>	<p>フリーダイヤル（固定電話専用） 0120-108-117</p>	<p>商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。最寄りの営業所については、TOA ホームページをご確認ください。</p>
<p>商品の内容や組み合わせ、操作方法についてのお問い合わせにお応えします。 受付時間 9：00～17：00（土日、祝日除く）</p>	<p>ナビダイヤル 0570-064-475（有料） FAX 0570-017-108（有料） ※ PHS、IP 電話からはつながりません。</p>	

当社は、お客様から提供された個人情報をお問い合わせ対応または修理対応の目的に利用いたします。また、修理委託目的で委託先業者へ提供することがあります。個人情報の取り扱いに関する方針については、TOA ホームページをご覧ください。

TOA ホームページ <https://www.toa.co.jp/>

TOA 株式会社

133-02-00040-07